

広げよう！優良実践の輪！

～平成28年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 16

安定した学級経営を基盤とした 集団づくり・学力向上の取組

備前市立日生西小学校

1 はじめに

本校の児童は、明るく素直ですが、自分で進んで行動することが苦手だったり、集団への適応ができていない児童が見られたり、また、書く力など学力の定着にはばらつきが見られるなど、くらしや学習の基盤に課題を感じていました。

2 取組の概要

(1) 集団づくりの取組

①ルールやマナーの徹底

「よい子のきまり」を周知し、あいさつ、服装、集合、掃除などについて、「**凡事徹底を全力で**」を合い言葉に指導を徹底しました。

②縦割り班活動

掃除や遊び、集会などを縦割り班で行い、児童の責任感

や所属意識、自己肯定感を高めるようにしました。



だまって掃除

③学級遊び

児童が相互理解を図り、仲間意識を高める場として大切にしました。

(2) 学力向上の取組

①分かる授業の展開

書く視点を明示し、書く時

間の確保を図って、児童が自分の考えを書くことを重視した授業づくりにより、全校で取り組んできました。

②個に応じた指導や支援の工夫

少人数指導やITにより、特に算数や国語の理解について、丁寧な指導を心がけました。

③放課後学力アップ教室

ボランティアの協力も得て、放課後の補充学習を実施してきました。



放課後学力アップ教室

④家庭学習の手引き

家庭学習の目安の時間を設

け、保護者と連携して、家庭学習の習慣化に取り組んできました。

⑤ICT機器の活用

一人一台のタブレット端末を活用して、より分かりやすい授業づくりを研究しています。

⑥読書活動の推進

蔵書を増やすと共に、読み聞かせ、学年指定図書を選定、図書室利用時間の確保などを図り、読書の習慣化に取り組んできました。

3 おわりに

本校では、こうした取組により、不登校やいじめを生まない体制がつけられ、学力や生活態度に一定の成果が見られてきました。今後も、凡事を徹底し、思考力や表現力につながる読書力を育む取組などを進めていきたいと思えます。

(校長 吉久正見)

教職員の協働による学力向上を 目指した取組

美作市立江見小学校

1 学校の現状と課題

本校は、県東北部の農村地帯に位置しています。児童数減少により3校（豊野小、吉野小、粟井小）と統合を行いました。現在児童数は151名、学級数8（通常学級6、特別支援学級2）です。児童は、明るく素直で活動的ですが、自分から進んで取り組んでいく態度や自分の考えを分かりやすく説明する力に課題があります。

また、若手教員が増えている実態から、人材育成が喫緊の課題となっています。

2 取組

(1) ベクトル合わせ

「授業で育てる、授業で伸ばす」を合い言葉に学校の学力観をそろえていきました。

「意欲と学び合いを育てる授業づくり」を学校経営の柱としました。授業を一番大切な教育活動として位置付け、その中で

子どもたちを伸ばしていくこと、教科の内容だけでなく、礼儀・マナー、達成感、自主性、責任感、表現力なども育てていくことを大切にしていきました。

(2) 研究授業

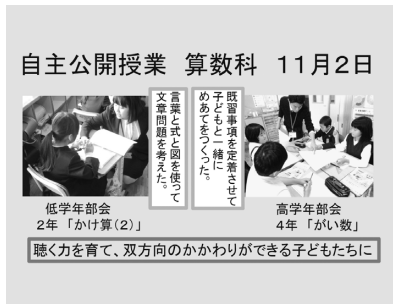
若手は複数回、延べ14回の研究授業を行いました。

事前模擬授業

い、若手とベテランとが一緒に授業をつくっていきました。また、美作地域に向けて「自主公開授業研究会」を開催しました。

(3) 学力向上

学力を支える三本柱として「朝学」「チャレンジ」「家庭学習」を位置付けました。「チャ



レンジタイム」とは、水曜日の6時間目に実施している、活用力を育てることを中心とした時間です。朝学、チャレンジとも二人体制で、より個別指導ができるようにしました。また、「えみっ子検定制度」で、基礎的な内容の習熟と挑戦する気持ちを育てるようにしました。漢字や計算だけでなく、都道府県名、ローマ字、縄跳び、九九など学年に合わせて取り組んでいます。

合格証は合格証フォルダに保管し、6年間持ち上がりま



また、子どもたちを取り巻く「人的環境」「教室環境」「学校環境」を整えることが学力向上には大切であると考えました。教職員による人的環境は特に大切で、知らず知らずの間に大きな影響を与えています。「一生懸命さ」「学ぶ姿勢」「あいさつ、笑顔」など意識を持った環境づくりをしていきたいと考えました。

(4) 人材育成

人材育成の視点は「リーダー育成」「若手育成」の二つです。分掌リーダー会を学校経営構想具現化の中心として位置付け、自覚的に行動する中で育成を図りました。また、「校長の期待すること」を個別に提示し、「自己目標シート」の取組として位置付けさせました。

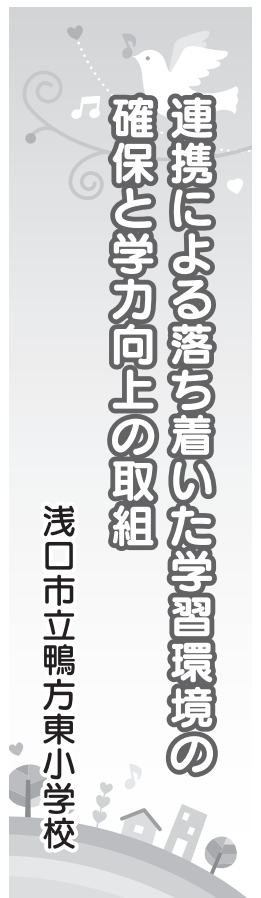
「若手育成」では、「ミニ研究授業」「ベテラン教師から学ぶ講座」「管理職との茶話会」などで、悩みを聞きながら中核となる授業力・学級経営力を伸ばしていく取組を行いました。

3 成果と課題

中位層、上位層の学力は確実に伸びてきましたが、低位層の底上げが引き続きの課題です。

職員の「学力」や「学校の方針」への考え方が少しずつ揃ってきました。「授業改善」への意欲も高まっています。教職員の「協働」は確実な手応えとして感じる事ができました。今年のスローガン「全員が、徹底して」を実践のよりどころとして、更に学校としての力を付けていきたいと思えます。

(校長 河野 雅彦)



浅口市立鴨方東小学校

1 現状と課題

本校は、児童数約360名、15学級の中規模校です。児童は、素直で、授業や集会活動等に落ち着いて取り組んでいます。

しかし、学力・学習状況調査の結果等から「基礎学力の定着が十分ではない」「メディア視聴時間が長い」「地域に貢献する気持ちが低い」等の課題があり、難しいことや新しい問題に挑戦しようとする児童も少なくありません。

そこで、本校では、「通いたい学校・通わせたい学校・協力したくなる学校を目指す」ことをコンセプトに、学校・家庭・地域が連携協働し、それぞれが当事者意識をもって、教育活動に取り組んでいく仕組みを構築することを目指して取り組んでいます。

2 取組の概要

(1) 学力向上に向けた取組



県立鴨方高等学校生による放課後学習支援

- ① 「岡山型学習指導のスタンダード」の徹底や「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う」授業改善、ノート指導の工夫、参加算数クイズ等、校内学習指導法の整備に努めています。
- ② 県教育庁のたしかめテスト等を活用した、学力の実態把握と基礎的な学力の定着や、学校支援ボランティアや県立鴨方高等学校生の支援による放課後学習

等の補充学習の充実を図っています。

(2) 落ち着いた学習環境の確保

① 鴨方東小生活ブランドの徹底を目指した取組や、小中連携によるあいさつや生活目標、ノーマディアウィーク等による取組を実施し、規範意識の確立を図っています。

② 家庭と連携し、毎月一週間、生活リズム向上を目指した「すこやかカード」の取組や、新入生保護者への、親プロ推進チームによる親育ち応援学習プログラムを活用した家庭教育支援の取組に努めています。また、保護者の有志による校内パトロールも実施しています。

(3) 支援体制の充実

① 教職員・PTA役員・地域住民が参加し、「地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップ」を実施しました。育てたい子どもの姿を共有し、ビジョン実現のためのアイデアを出し合いました。

② 家庭科実習や九九の聞き取り、環境整備等で学校支援ボランティアの方に教育活動を支援していただいています。

③ 地域の学校・子どもの応援団として「鴨東セカンドスクール」を立ち上げ、県立鴨方高等



地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップ

学校セミナーハウスにおいて3泊4日の通学合宿を年間2回実施しています。

3 成果と課題

きまりの徹底や学習規律の定着を目指して、家庭や地域の方々の支援をいただきながら、教職員が一丸となって取り組んできた成果が徐々に実を結び、落ち着いた学校となっています。

今後も、子どもや地域等の課題を共有し、学校・家庭・地域が連携協働して、子どもの育ちや学びが充実するよう取り組んでいきたいと考えています。

(校長 安田 隆人)

落ち着いた学校づくりを 目指した取組

倉敷市立味野中学校

1 学校の現状と課題

本校は、クラス数14の中規模校です。本校OBの保護者が多いことから、伝統的な校風についての理解があり、学校に対して協力的です。しかし、一方で携帯電話末機に代表されるように、生徒の生活形態の変化が親子関係にも影響し、学習準備や家庭学習が身につけていない生徒も見られ、全国学力・学習状況調査等の結果からも「学習内容の定着が十分でない」「家庭学習時間が不足している」などの課題が明らかになりました。

2 重点的な取組

家庭学習時間の不足の要因となる宿題について、生徒のアンケートや校区の小学校への聞き取りから、宿題の量・質ともに中学校入学直後に大きなギャップがあることが明らかになりました。



宿題一覧ボード

そのギャップの軽減と生徒自身のセルフマネジメントを育成する観点から、「宿題一覧ボード」と、「新生活ノート」を新たな取組として昨年度からスタートさせています。

(1) 宿題一覧ボード

小学校とは異なり、教科担任制となる中学校では、多くの先生から宿題を出され、全体の調整ができていなかったため、量・質のバランスが崩れたり、生徒

の宿題計画も十分とは言えませんでした。そこで、教科の担当者が宿題を出した時点で、内容と提出日を可視化したボードを設けました。

(2) 新生活ノート

多くの小学校が自主学習ノートを用い「毎日1ページ」といった習慣がありますが、中学校では問題演習のプリントが増え、自主学習の機会は減ります。そこで、少しでも良い習慣を続けようと、先進校から学んだ自主学習コーナーのある新生活ノ

トを始めました。

3 成果

運用し始めて数ヶ月後、教員からは「宿題は何?」「そんな宿題知らなかった」といった生徒の声は減っているという感想が聞かれ、提出状況も改善しているとのことでした。また、昨年末には家庭学習時間のアンケートを実施し、新生活ノートをコンスタントに提出している生徒とそうでない生徒を比較することが示されました。

4 今後の更なる取組の充実

昨年度は試行の段階でしたが、今年度からはこれまでの取組が定着できるよう、教員もボードの活用や、生活ノートへの応援コメント等で生徒の学力向上に寄与したいと考えています。また、この事業で整備していただいたタブレットPCを用いた授業改善を図っていきます。

(校長 渡辺次郎)

生活ノート

時間割と自主学習の記録



日	科目	時間	学習内容
4月22日	金	5:00-5:30	政治研修の申し込み(4/25まで)
1	社会	地図帳、プリント	保護者のハンコを忘れないように!
2	数学	教科書P15 問題2-3	政治研修の部屋割りが決まった。
3	音楽	楽譜ノート	まだ、聴いたことがない人もいます。
4	国語	教科書、読書感想文テスト	ドリルをやるけど、楽しんでます。
5	保健	体育館ゲームス、ノート	仲間を助かっているの、そらそら
6	学活	政治研修について	プリントを見直しをしよう。

政治研修、○○委員会(1-1)教室
・委員会、部活動など、その他の予定

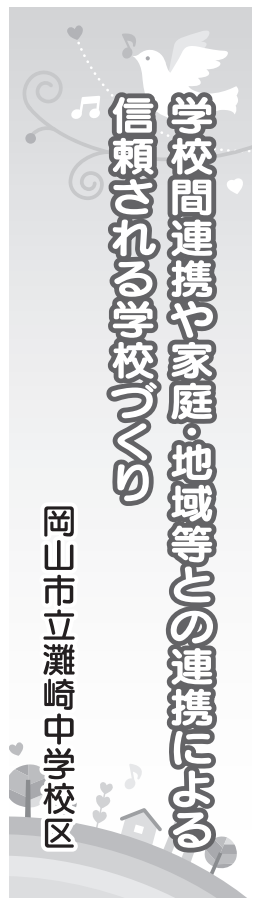
先生からのコメントなど

自主学習例
- 新出漢字の書き取り
- 新出英語の書き取り
- 計算問題(過去問など)
- テストの関連直し

これは記入例です。
空란の使い方は、先生の指示を聞いてください。

おうちの人に、覚えていかせたいから、全部書きた。次は暗唱もがんばって挑戦してみよう。

新生活ノート



学校間連携や家庭・地域等との連携による信頼される学校づくり

岡山市立灘崎中学校区

1 はじめに

学力向上と生活習慣の確立をめざす本中学校区では、1こども園、2保育園、3小学校、1中学校が連携し、地域協働学校・青少年育成協議会を核とした取組の中で、家庭・地域等と一体となって課題解決を進めてきました。

2 学力向上に向けた取組の概要

(1) 魅力ある授業の研究・実践

本中学校区では、共通研究主題「主体的な学びの中で、共に高め合う子どもを育成する保育・授業づくり」を掲げ、「授業これだけは！」の徹底による授業改善に励んでいます。全ての教室で「めあて」と「まとめ」のカードを掲示し、学び合いの場面を効果的に設定した授業に努めています。

(2) 授業力向上研修の充実

校内研修では、1人1回以上行う公開授業を中心に、授業の基本の徹底や活性化に取り組んでいます。また、適宜学校園で相

互参観を行うほか、毎年1月には、小中4校の合同研修会を開催しています。その会では、輪番で公開授業、研究協議を行い、外部講師等を招聘して、指導助言をいただいています。

3 生活習慣の確立に向けた取組の概要

(1) 子どもとメディアのよい関係づくりの推進

①「元氣アップ大作戦」の実施
年間3回(学期始めに1回)、園児・児童・生徒を対象に、睡眠とメディアを中心とした生活習慣調査を実施しています。その結果は保健部会だよりに掲載し、生活リズムの見直しを啓発・指導しています。

②「オフメディアウィーク」の実施

年間4回(中学校の定期考査前1週間)、「オフメディアウィーク」を実施しています。中学校は、チャレンジシートを活用してテスト勉強の強化を図り、こ保小学校は、自主勉強、読書、お

手伝い等、生み出された時間の有効活用を図っています。

③「児童生徒メディアサミット」の開催

平成27年度に、スマホ・携帯のルール・マナーづくりに着手し、小中学校の児童・生徒会が集まって、メディアサミットを開催しました。保護者・地域の方々の中、各校の取組を発表し、



児童生徒メディアサミット

中学校区統一スローガン「めざせ！メディアマスター」を決定しました。

④「オフメディア川柳」の募集

子どもから大人までを対象に、オフメディアをテーマにした川柳を募集し、優秀作品は表彰を行って、学校園や地域に掲示しました。

(2) 灘崎中学校区スタンダードの定着

①はきものそろえ

平成25年度に始まった「はきものをそろえ」と心もそろえ」という取組は、学校園、家庭のみならず、児童館や公民館等の協

力を得ることができました。この言葉を記したポスターは、学校園や地域に広く掲示され、大きな成果を上げています。

②話の傾聴

平成25年度に、「黙って、目を見て、最後まで」「目と耳と心で聴く」という、話を聴くときの約束が生まれました。授業や日常生活において継承しています。

③挨拶の励行

各学校園独自の挨拶運動に加え、学期に1回、中学校区一斉挨拶運動を行っています。また、挨拶をテーマにしたポスターの募集・表彰・掲示も行っています。

4 おわりに

こうした取組により、落ち着いた学習環境づくりが進み、子ども達の規範意識や生活規律とともに、学習意欲の向上といった成果が見られました。今後も縦と横の連携を大切にしながら、努力を継続していきたいと思

(灘崎中学校長 原田 真一)



はきものそろえの掲示物と下足箱